

所属名	事務事業名	ページ番号
交通政策課	公共交通維持確保推進事業	2
交通政策課	佐賀空港利活用促進事業	3
交通政策課	北部地域交通運行経費	4
交通政策課	公共交通運行維持特別支援事業	5
交通政策課	自動車運送事業会計関係事業	6
交通政策課	赤字路線バス運行事業	7
交通政策課	都市間バス路線等運行対策事業	8

# 令和4年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	公共交通維持確保推進事業	事業期間	平成 31 ~	年度
担当部署・係名	交通政策課	担当課長名	大塚 智樹	
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち		
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立		
	基本事業	生活交通の維持・確保		

## 1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	公共交通空白地域等において、公共交通検討協議会を開催し、地域が主体となって地域のニーズに沿った公共交通を導入することで、公共交通空白地域を解消し、地域福祉の向上を図る。また、新型コロナウイルス感染症の拡大により利用者数が激減した市交通局と連携して利用促進を行うことで、市民生活に必要な公共交通の維持を図る。				
事業の対象者	市民、市交通局				
令和3年度主な活動実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>春日北校区において、地域内公共交通の導入や利用促進について話し合うため、地域検討会にファシリテーターを派遣。試験運行に向け、運行計画をまとめた。</li> <li>ワンコインnimocaを購入・更新された方に1,000ポイントを付与 248件</li> </ul>				
<b>決算の推移 (単位 千円) ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	37,006	2,385			
うち佐賀市の負担額	11,303	834			

## 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
路線バス利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
3,150	4,025 3,250	4,041	4,058	4,074		

成果指標②						単位
公共交通検討協議会開催数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
3	5 4	7	7	7		

## 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	路線バスの利用者は前年よりも増加したが、コロナ禍以前と比べると依然として減少が続いており、目標を下回った。公共交通空白地域等におけるモデル校区の新規応募がなく、協議会開催回数も目標を下回った。



成果目標達成に向けた対応策等	
<p>佐賀駅バスセンターの乗り場を事業者別から方面別に再編し、利用者にとって利用しやすいダイヤにするとともに、サイン設置や行先番号の導入に取り組むことで利便性を向上させ、利用者増を目指す。また、ワンコインnimocaの購入・更新を引き続き呼びかけ、現金接触の機会を減らしながら、引き続き利用促進を行う。</p> <p>春日北校区において、本格運行に向けて運行計画をつくれるよう協議を重ねていく。また、モデル校区を新たに採択し、公共交通空白地域等の解消に向けて、地域とともに協議を重ねる。</p>	

# 令和4年度 事務事業進捗報告シート

<b>事務事業名</b>	佐賀空港利活用促進事業	<b>事業期間</b>	平成 10 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課	<b>担当課長名</b>	大塚 智樹
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	広域交通の利便性の向上	

## 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	九州佐賀国際空港活性化推進協議会等の取組に参画し、事業所・県人会会員等への営業、イベント等でのPR、修学旅行誘致事業等を通じて、佐賀空港の活性化を推進するための活動を行う。				
<b>事業の対象者</b>	市民				
<b>令和3年度主な活動実績</b>	九州佐賀国際空港活性化推進協議会の取組への参画				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業総額</b>	1,000	1,000			
うち佐賀市の負担額	1,000	1,000			

## 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
佐賀空港利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
113	113 145	113	113	113		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

## 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	佐賀空港の利用者はコロナ禍以前より減少してはいるものの、昨年度に比べ利用者が約31,900人増加したため、目標達成した。



成果目標達成に向けた対応策等
コロナ禍ではあるものの、人流や経済活動が戻ってきており、様々なイベント、行事なども開催されている。佐賀空港を積極的に利用してもらうためのPRを通じて、さらなる活性化を推進するための活動を行ってきたい。

# 令和4年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	北部地域交通運行経費	事業期間	平成 17 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課	担当課長名	大塚 智樹
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

## 1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	過疎地域などを抱える北部地域は人口が減少しており、民間バス会社では路線バスの採算が見込めない。そのため、市が三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅デマンドタクシーの運行欠損額相当分の補助を行うことで、高齢者や児童等の公共交通の確保及び地域福祉の充実を図っていく。				
事業の対象者	市民、タクシー業者				
令和3年度 主な活動実績	・三瀬地区コミュニティバス、富士町コミュニティバス及び松梅デマンドタクシーの運行事業者に対する欠損補助				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	56,770	59,475			
うち佐賀市の負担額	50,490	55,395			

## 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
コミュニティバス及びデマンドタクシー利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
46,307	46,886 47,451	47,121	47,357	47,563		

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

## 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	北部地域全体では目標達成している。三瀬地区や松梅地区では若干減少したが、富士地区では全体で前年比約1,330人増加したため、目標を達成した。



成果目標達成に向けた対応策等
地域の公共交通に関する時事や利用実績などを掲載したニュースレターを、定期的に運行地域に全戸配布することで、住民に対して広く周知し、利用促進を図っていく。また、利用者が減少している路線では、その原因を分析し、より利用ニーズのある路線となるよう、利便性向上策を検討する。

## 令和4年度 事務事業実績報告シート

<b>事務事業名</b>	公共交通運行維持特別支援事業	<b>事業期間</b>	令和 2 ~ 令和 3 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課	<b>担当課長名</b>	大塚 智樹
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	生活交通の維持・確保	

### 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	新型コロナウイルス感染症の拡大により利用者数が激減した路線バス、タクシー事業者を支援するとともに、バス事業者と連携して利用促進を行うことで、市民生活に必要な公共交通の維持を図る。 ○車両保有数に応じた公共交通運行維持特別支援金の支出 令和2年度 バス会社5者、タクシー62者 令和3年度 バス会社5者、タクシー57者				
<b>事業の対象者</b>	バス・タクシー事業者				
<b>根拠法令等</b>					
<b>決算額の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業費総額</b>	186,355	75,320			
うち佐賀市の負担額	0	0			

### 2 事業の活動実績

活動実績①					単位
路線バス利用者数					千人
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
3,150	3,250				

活動実績②					単位
バス・タクシー事業者数					者
R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6実績	
67	62				

### 3 活動実績の推移に関する分析及び今後の見込み

バス・タクシー事業者数は、高齢化や死亡により個人タクシー事業者数が減少したが、倒産などによる減少はなく、一定の事業者数を維持できた。佐賀駅バスセンターの乗り場を事業者別から方面別に再編し、利用者にとって利用しやすいダイヤにするとともに、サインエージ設置や行先番号の導入に取り組むことで利便性を向上させ、利用者増を目指す。収支が厳しい赤字路線バスなどに引き続き補助を行い、事業者の経営を支援する。

# 令和4年度 事務事業進捗報告シート

<b>事務事業名</b>	自動車運送事業会計関係事業	<b>事業期間</b>	平成 9 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課	<b>担当課長名</b>	大塚 智樹
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	生活交通の維持・確保	

## 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	市民福祉の向上及び市民の日常生活における交通手段を確保するため、経営が厳しい交通局に対し補助金、繰出金等を支出することにより、経営の健全化を図る。				
<b>事業の対象者</b>	市民、交通局				
<b>令和3年度 主な活動実績</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活交通路線協調補助（10系統）</li> <li>バス停上屋設置補助（2基分）</li> <li>超低床型バス導入補助（新車2台分）</li> </ul>				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
<b>区分</b>	<b>R2年度</b>	<b>R3年度</b>	<b>R4年度</b>	<b>R5年度</b>	<b>R6年度</b>
<b>事業総額</b>	164,821	150,466			
うち佐賀市の負担額	164,821	150,466			

## 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
市営バスの利用者数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
2,428	3,303 2,642	3,319	3,336	3,353		

成果指標②						単位
市民一人当たりの市営バスの利用回数						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
10.4	14.2 11.4	14.3	14.4	14.5		

## 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	路線バスの利用者は前年よりも増加したが、コロナ禍以前と比べると依然として減少が続いており、目標を下回った。



成果目標達成に向けた対応策等
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続き、利用者が伸び悩んだ。事業の回復に向け、交通局が令和元年6月に策定した「佐賀市営バス事業新経営計画」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

# 令和4年度 事務事業進捗報告シート

<b>事務事業名</b>	赤字路線バス運行事業	<b>事業期間</b>	平成 18 ~ 年度
<b>担当部署・係名</b>	交通政策課	<b>担当課長名</b>	大塚 智樹
<b>総合計画における位置づけ</b>	<b>政策</b>	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	<b>施策</b>	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	<b>基本事業</b>	生活交通の維持・確保	

## 1 事務事業の基本情報

<b>事業概要・目的</b>	交通局の経営効率化を進める必要がある一方、高齢化社会の進展や運転免許証の自主返納者数の増加を踏まえると、地域における生活交通路線を維持することも必要である。そのため、現在交通局が運行している路線のうち、赤字幅の大きい8路線を市の交通政策路線に位置づけて運行することにより、公共交通サービスの維持と市民の移動手段の確保を図る。
<b>事業の対象者</b>	市民
<b>令和3年度主な活動実績</b>	交通局の路線のうち、赤字幅が大きい8路線について、市の交通政策による路線として運行した。

### 決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない

区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
<b>事業総額</b>	70,691	76,985			
うち佐賀市の負担額	70,691	76,985			

## 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
赤字8路線の利用者数						人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
337,439	339,126 344,530	340,822	342,526	344,239		

  

成果指標②						単位
						回
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

## 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
①達成している	路線バスの利用者はコロナ禍以前と比べると依然として減少が続いているが、赤字8路線の利用者数は目標を上回った。



### 成果目標達成に向けた対応策等

交通局が令和元年6月に策定した「佐賀市営バス事業新経営計画」に基づいて実施する増収対策、サービス向上対策及び節減対策の進捗状況を見極め、必要に応じて意見を述べることで、現状のバス路線を維持することを基本としながら事業費の増大を抑える。

## 令和4年度 事務事業進捗報告シート

事務事業名	都市間バス路線等運行対策事業	事業期間	平成 22 ~ 年度
担当部署・係名	交通政策課	担当課長名	大塚 智樹
総合計画における位置づけ	政策	災害に強く、安心で利便性が高い暮らしが実感できるまち	
	施策	11市民生活を支える総合交通体系の確立	
	基本事業	生活交通の維持・確保	

### 1 事務事業の基本情報

事業概要・目的	利用者の減少により路線の維持が困難になっている民間の乗合バス事業者に対し、予算の範囲内において補助を行い、関係自治体等と協調して広域生活圏の機能保持を図るとともに、交通弱者をはじめとする市民の移動手段の確保を図る。				
事業の対象者	民間バス事業者				
令和3年度 主な活動実績	祐徳バス（佐賀、武雄）、昭和バス（古湯北山、神埼三瀬、上合瀬、佐賀唐津、中極）、西鉄バス（沖新、江見）、ジョイックス交通（三瀬神埼）各線の欠損補助				
<b>決算の推移（単位 千円） ※職員人件費は含まない</b>					
区分	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
事業総額	95,982	92,593			
うち佐賀市の負担額	75,082	67,893			

### 2 成果指標の目標及び実績

成果指標①						単位
民間事業者補助対象路線の乗車人数						千人
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		
721	721 608	721	721	721		

年度	目標	実績
R2	721	721
R3	721	608
R4	721	721
R5	721	721
R6	721	721

  

成果指標②						単位
R2 実績	R3 目標 実績	R4 目標 実績	R5 目標 実績	R6 目標 実績		

年度	目標	実績
R2	0	0
R3	0	0
R4	0	0
R5	0	0
R6	0	0

### 3 事業成果の振り返り

成果目標の達成状況	成果目標の達成状況に対する分析
③達成できていない	路線バスの利用者はコロナ禍以前と比べると依然として減少が続いており、目標を下回った。

<b>成果目標達成に向けた対応策等</b>
令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響が続き、利用者が伸び悩んだ。新型コロナウイルス感染症対策を各事業者と連携して取り組むとともに、利用者を維持するため、各路線沿線市町と協調して利用促進に取り組む。